

きょうとびの教育

No.144
令和2年秋号

発行：京都府教育委員会
編集：京都府教育庁管理部
総務企画課
電話：075-414-5710
URL：http://www.kyoto-be.ne.jp



紙面 特集

「京都府幼児教育センター開設」

人として生きていくための基となる力を育み、子どもたちが健やかに成長できる取組を進めます。

Web 特集

「WITHコロナ・POSTコロナ社会における学びの保障」

感染予防を徹底しながら、学びを止めないために
様々な取組を行っています。



「令和2年度当初予算について」



日々変化する状況に対応した最新の内容を、Webページでお届けします。

令和2年4月「京都府幼児教育センター」を開設!!



幼児は、周りの大人の信頼感に支えられた安定した情緒の下で、自分の世界を広げ、様々な人やものとの関わりを通して、心身の調和のとれた発達の基礎を築いていきます。幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な役割を果たしています。

京都府には、幼稚園、保育所、認定こども園といった多様な幼児教育施設があり、国立、公立、私立と設置者も様々です。そのすべてにおいて質の高い幼児教育が実践され、質の高い小学校教育へと繋げていくことが大切であり、そのためには、幼児教育の関係者や小学校、市町村がお互いに連携を深めていくことも必要になっています。

そこで、幼児教育の推進の拠点となるように京都府の幼児教育を担当する部局が一体となり、本年4月に京都府幼児教育センターを教育委員会内に設置しました。

この幼児教育センターには、幼稚園や保育所の園長等を歴任した知識と経験の豊富な4名の幼児教育アドバイザーを配置しています。

幼稚園、保育所、認定こども園を訪問し、保育の参観や園長先生との面談を通じて、各園で悩まれていることへの助言をしたり、各園などでの研修会で講演も行い、保育者の育成に努めています。



また、リーフレット「きょうとの子ども～夢・希望・笑顔のあふれる明日を創るために～」を作成し、幼児教育の質の向上のための取組を例示したり、小学校教育と連携するためのアイデアを紹介し、研修会をはじめ様々な機会での活用を促しています。

そのほか、ホームページも作成し、先述のリーフレットの具体的な活用方法や、幼児教育アドバイザーによる研修動画、また、保護者の皆様に向けた子育てに関する情報など様々なコンテンツを提供しています。ぜひ「京都府幼児教育センター」で検索してみてください。

今後とも、子どもたちが、人として生きていくための基礎となる力を育み、健やかに成長できるよう、幼児教育の充実に向けた取組を進めてまいります。

幼児教育センターホームページ



おひとりで悩まないで!

電話教育相談

ふれあい・すこやかテレフォン
(24時間受付)

075-612-3268
または 3301
0773-43-0390

メール教育相談

「メール教育相談 京都」で検索してください。携帯電話からも相談できます。

※携帯電話の場合、受信拒否設定を解除してください。



来所教育相談

京都府総合教育センター（伏見区）及び北部研修所（綾部市）で、臨床心理士、精神科医等が直接会ってお話をうかがいます。

巡回教育相談

お住まいの近くの教育局等に臨床心理士が出向き、直接会ってお話をうかがいます。

ネットいじめ通報サイト

ネット上でいじめを発見したら通報してください。



体罰専用電話

075-612-5013
(毎週水曜日 11:30~18:30)

来所・巡回教育相談のお申し込みは、
「ふれあい・すこやかテレフォン」に
お電話ください。

新型コロナウイルス感染症の影響等により 家計が急変した世帯の高校生等への支援

高校生等修学支援事業（修学資金の貸付）では、失業や休業などにより収入が減り家計が急変した場合、随時、修学資金の貸付申請ができます。また、修学資金を返還している場合は、返還の猶予（返還の先延ばし）ができます。

また、京都府奨学のための給付金制度では、失業等により保護者等（親権者全員）の住民税所得割の合計額が非課税相当となった場合、家計急変として返済の必要がない給付金の申請ができます。

詳細は、ホームページをご覧ください。電話でお問い合わせください。

高校教育課修学支援係 TEL: 075-574-7518 修学支援事業ホームページ



STOP! コロナ差別

新型コロナウイルス感染症に関して、メディアやSNSなどにはたくさんの情報があふれています。ウイルスに関する悪い情報にばかり目が向き、不安になることで、「○○な人は感染症に関わっているので危険だ」という偏見が生まれます。その結果、それらの人を遠ざけるといった言動（差別）が広がり、つらい思いをしている人がいます。

例えば、医療従事者ということだけで、タクシーの乗車を拒否されたり、子どもの通園を断られたりするケースもあり、このようなことは、決して許されることではありません。



そのような中、奮闘されている医療従事者の方々に応援するための取組をしている府内の学校があります。これらの学校では、子どもたちが、地元の病院に感謝や励ましのメッセージを送る活動をしています。

WITHコロナ社会を誰もが安心して過ごすためには、みんなが正しい情報を共有して、偏見や差別を生み出さないためにはどうすれば良いか考えていくことが大切です。



人権教育室
ホームページ

山城郷土資料館

特別展『京都スタイル-民具で巡る多文化京都-』

日本海に面した丹後、山との関わりが深い丹波、千年の都京都を含む山城、全国的にみても京都府には多様な生活文化が息づいています。そのため生活で使われる民具も特徴的なものが多くあり、その形態や分布に生活文化の地域性が反映されています。特別展では、生業の民具を通じて丹後・丹波・山城の多彩で豊かなもうひとつの京都の生活文化の地域性を紹介します。

展示期間 令和2年10月17日(土)～12月6日(日)

毎週月曜休館

(11月23日(月・祝日)は開館し、11月24日(火)は休館)



寒天製造用具「テンツツ」(亀岡市文化資料館蔵)



山城郷土資料館ホームページ

丹後郷土資料館

特別展『天橋立と丹後国分寺』

丹後国分寺は、天平13(741)年の国分寺建立の詔(みこと)に基づいて、天橋立にちょうど正対して端から端まで望むことができる好所を選んで創建されました。丹後郷土資料館の敷地に現存する金堂や五重塔などの基壇や礎石は、南北朝時代の建武元(1334)年に再興されたもので、その往時の姿は、雪舟が描いた「天橋立図」の画面中央に描かれています。

今回の展示では、当館の開館50周年を記念して、天橋立を中心とした地域の地理的・歴史的環境の中で丹後国分寺について考えます。

展示期間 令和2年10月24日(土)～12月13日(日)

毎週月曜休館

(11月23日(月・祝日)は開館し、11月24日(火)は休館)

※国宝「天橋立図」を10月31日(土)～11月23日(月・祝日)に展示します。



史跡丹後国分寺跡と天橋立



丹後郷土資料館
ホームページ

生涯学習に



京都府立図書館

学校の授業に

蔵書は専門書を中心に131万冊！調査研究に活用できる各種データベースも揃えています。

新型コロナ対策

閲覧席にはパーティションを、入口付近には手指消毒液を設置するなど、安心して利用いただける環境を整えています。

開館時間

火曜日～金曜日 午前9時30分～午後7時

土曜日・日曜日・祝日 午前9時30分～午後5時

休館日

月曜日（祝日及び振替休日は開館、翌日が休館）

毎月 第4木曜日（祝日は開館）年末年始 特別整理期間

※開館時間、休館日等変更する場合があります。

詳細はホームページ等でご確認ください。

検索の充実と、図書の配送

ホームページから府内の図書館等の蔵書の一括検索が可能。「連絡協力車」で、普段お使いの図書館まで図書をお届けします。



読書を通じた家庭学習支援

すべての小学校低学年の児童及び府立特別支援学校小学部の児童が読書を楽しめるよう約3万冊の本を各校に配布しました。家庭での読書をはじめ、学校図書館や学級文庫などに活用いただいています。

図書のセットを学校に貸出

環境、福祉・人権、仕事などのテーマで、貸出用のセットをジャンル毎に用意しています。調べ学習や朝読書などに活用いただいています。

京都府立図書館

Q 検索



住所：京都市左京区岡崎成勝寺町
電話：075-762-4655

京のエジソンプログラム

乙訓教育局では、子どもたちの科学技術に対する興味や関心を高め、将来の科学技術を担う人材の育成を図ることを目的に、地元企業5社の協力を得て「京のエジソンプログラム」出前授業を実施しています。

小学校でのプログラミング教育の必修化を受け、令和元年から小学校5年生を対象に、株式会社村田製作所による新授業「プログラミング授業“せんせいロボット”」を始めました。この授業では、社員の方々が“せんせいロボット”役になり、子どもたちはロボットを動かすための様々な指示を考え、タブレットを使って指示を出します。なかなか思いどおりにロボットが動いてくれないグループもあり、指示と結果との間で、試行錯誤を繰り返しながら、楽しくプログラミング的思考（論理的に考えていく力）を学ぶことができる授業です。

乙訓教育局



子どもたちの指示で動く
“せんせいロボット”

くわしくは
こちらから



中丹教育局

中丹版キャリアマップ『中丹の学びの場×魅力 再・発・見！』

中丹地域で活動している様々な団体や組織が連携した教育協働ネットワーク「中丹はぐくみサポート会」では、中丹地域の魅力あふれる「学びの場」を紹介した「中丹版キャリアマップ『中丹の学びの場×魅力 再・発・見！』」を作成しました。

この資料では、地元の大学や専門学校等を「学びの場」として、学部や学科、学ぶことができる内容、取得できる資格、奨学金等の制度を紹介しています。

学校の職場体験の学習や総合的な学習の時間などの資料として活用していただき、進学や就職の情報に触れることで、生徒が自身の将来について考えるきっかけになってほしいと考えています。

また、保護者の皆さんにも中丹地域の「学びの場」の魅力を再発見していただき、子どもたちの将来について御家庭で一緒に考えていただきたいと思います。



くわしくは
こちらから



丹後教育局

TANGO子ども未来プロジェクト～ふるさと丹後を担う人材育成を目指して～



ロボットがプログラミングどおりに
動くか確認している様子

くわしくは
こちらから



ふるさと丹後への郷土愛を醸成することを通して、将来、丹後地域の産業や地域づくりを担う人材を育成することを目的に、丹後機械工業協同組合等と連携し、小・中学校への出前講座を実施しています。

この出前講座には、地元企業とともに、府立峰山高等学校産業工学科もロボット操作やプログラミングのテーマで講師役を務めています。

昨年度の取組では、子どもたちは積極的に質問をして、ロボットを通してプログラミングへの興味関心を高めていました。また、講座内容や役割分担について事前に検討を重ねた結果、子どもたちに伝わった実感を得られたことは、高校生にとっての学びにもつながりました。

この取組を通して、丹後で生まれ育つ子どもたちが、ふるさと丹後に誇りと愛着を持ち、社会に貢献できる人材に育つことを願っています。